

# 群馬大学基金

2022年度 事業報告書

あなたの寄附が  
群馬大学の未来を創る



駆ける未来へ  
150年の歴史と共に

# 群馬大学基金へのご支援に対するお礼

皆様には、日頃より群馬大学へ温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。2022年度も群馬大学基金を活用し、様々な事業を実施することができました。誠にありがとうございます。

本学では2022年度から、ロシアによる侵攻により、教育や研究の継続が困難となったウクライナの人々を一時的に受け入れ、支援しております。そのため皆様に基金へのご支援をお願いさせていただきました。

多くの皆様から本趣旨にご賛同いただき、学生・研究者への励ましのメッセージと共に、非常に多くのご寄附を賜りました。お陰様で、基金を活用した受入支援事業として、渡航費や住居費、生活費の給付を行うことができました。そのほかにも、経済的困窮学生に対する奨学金給付や留学経費の補助、学生の食に対する支援といった事業についても引き続き行うことができました。今後も学生が経済的な理由で修学を諦めることのないよう、支援を継続してまいります。

また、今年の本学の起源とする「小学校教員伝習所」の設立から150年となります。これを記念し「創基150周年記念事業」を行い、全学で協力して周年事業に取り組むことにより、大学への愛校心をはぐくんでいきたいと考えております。さらに、これを機に大学への理解促進、ブランド力の向上、地域等とのさらなる連携も目指してまいります。

今後も国立大学を取り巻く環境の変化に対応しつつ、学生に対する支援、教育研究の質の向上、社会貢献活動の充実等、群馬大学の発展に努力して参ります。引き続き群馬大学基金にご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

国立大学法人群馬大学長

石崎 泰樹



# 群馬大学基金による事業

基金への寄附金は、寄附者様のご意向に沿って以下の事業で活用させて頂いております。

## 事業の概要

1. 学生の修学支援に資する事業  
経済的理由により修学が困難な学生に対する奨学金の給付、海外留学費用の補助等
2. 大学運営全般に係る事業  
教育研究の支援、国際交流の推進、教育研究環境の整備、附属病院・附属学校の整備
3. 重粒子線治療の普及・発展に資する事業
4. 学生や若手研究者の研究等支援に資する事業  
公募型プロジェクトの費用補助、論文刊行費用・学会参加旅費の支援等
5. ウクライナ学生・研究者受入支援事業
6. 創基150周年記念事業



# 遺産によるご寄附

群馬大学では、生前のご寄附のほかに、皆様のご想いを未来へ届けるため、遺産によるご寄附も承っております。

## 遺言によるご寄附（遺贈）

遺言書を作り、遺す財産を相続人以外の特定の人や団体に贈ったり、寄附したりすることを「遺贈」といいます。本学へご遺贈いただきました財産については、原則として相続税が非課税となります。

なお、本学に財産の遺贈をお考えの皆様の手続きの便宜を図るために、銀行と協定を締結しており、煩雑な相続手続きを銀行が代行いたします。

遺贈によるご寄附をお考えの方は、基金係までお気軽にご相談ください。

## 相続財産からのご寄附

故人のご遺志、ご遺族の意思に沿い、相続された財産について群馬大学へのご寄附を承ります。相続税申告期間内（被相続人がご逝去された翌日から10ヵ月以内）に本学にご寄附いただいた財産については、相続税がかかりません。

なお、相続税の非課税措置を受けるには、本学が発行する寄附金領収書を添付して税務署に申告していただく必要がありますので、相続財産からのご寄附をお考えの方は、基金係までお早めにご相談ください。

# 群馬大学基金の2022年度の活動を事業ごとにご報告します。

## (1) 学生の修学支援に資する事業

### ① 経済的困窮学生に対する修学支援金給付事業

#### ▼ 奨学金として20万円を大学院生12人に給付（総額240万円）

経済的困窮度が極めて高く、意欲と能力のある大学院生12人に、返済を要しない奨学金として、一人20万円を給付いたしました。

ご寄附をいただいた皆様に感謝し、社会に貢献できる学生を育ててまいります。

#### ▼ 修学支援金給付を受けた学生の声

##### (保健学研究科 1年生)

このたびは群馬大学基金を活用した修学支援金給付事業にご支援いただき本当にありがとうございます。新型コロナウイルスの影響や、円安の影響による物価上昇が相次いでいる中で、生活費をどのように節約していくか悩んでいたため、このような給付金を頂けることに心から感謝しています。このような支援を頂くからには、今後の大学院での生活や研究に、より一層力を入れ、成果を残せるよう励んでいきます。本当にありがとうございました。

##### (理工学府 1年生)

この度は、群馬大学基金による修学支援金給付事業にご支援していただきありがとうございます。両親には生活費の援助を頼れず、奨学金とアルバイトによって生活している状況の自分にとって、このような大金を給付していただけることは、大学生活や研究活動を行っていく上で、経済的にも精神的にも大きな支えとなります。今後一層研究活動に精力的に取り組もうと改めて決心しました。私のように生活が苦しい人のために修学支援を行ってくださることに改めて深いお礼の気持ちを伝えさせていただきます。この度は本当にありがとうございました。

##### (理工学府 1年生)

この度は修学支援事業にご支援をいただき誠にありがとうございます。

いただいた修学支援を活用し、英語教材などこれまで金銭的に躊躇していた教材を購入して、自身の技術者としての素養や能力を高めていきたいです。また、昨今の物価高や、就職活動を前に、アルバイトを増やさなければと考えていたところ、今回のご支援をいただけたことにより、勉学に充てる時間と心のゆとりの両方を取り戻すことができました。

今回の修学支援を受けて感じた、支援してくださる皆様の思いを、いつか私自身も群馬大学基金を通して後輩たちに還元していくことで、恩返しをさせていただきたいと強く感じました。後の世代に思いを受け継いで行くことのできる、そんな人物になり、学生の夢や希望を支える存在となれるよう、皆様の思いを胸に日々の勉学や研究をより一層充実させてまいります。

##### (理工学府 1年生)

この度は、群馬大学基金を活用した修学支援金給付にご支援いただきありがとうございます。

す。私の家は母子家庭であるため、大学の専門書などの購入は非常に大きな出費であり、自分の研究に関する分野について本格的に学ぶということが容易なことではありません。しかし、群馬大学基金を活用した修学支援金給付事業のおかげで金銭面に余裕が生まれ、アルバイト等の時間をかなり削減できることに加え、このような専門書の購入も可能となり、より一層自分の研究や勉学に取り組むことができます。群馬大学基金へご寄附いただいた方々に大変感謝しています。皆様からいただいたものを無駄にすることが無いよう、これからも日々学業に励み精進していこうと思います。

## (理工学府 1年生)

修学支援金のご支援をいただき、誠に有難うございます。

私はこれまで貸与奨学金や授業料免除を申請し様々な援助をしていただいております。これらの素晴らしい制度に加えて今回の修学支援金の給付という制度は、困窮している学生並びに家庭にとって非常に喜ばしく手助けになる制度と確信しております。修学支援金によって、バイト尽くしであったり、食生活に苦しむ様な学生が、より一層勉学や研究等に専念することができると思います。学生として修学支援金を頂く以上、より一層気を引き締め研究など日々精進して参りたいと考えています。改めまして、今回の修学支援金の給付に感謝申し上げます。

## ②留学経費補助事業

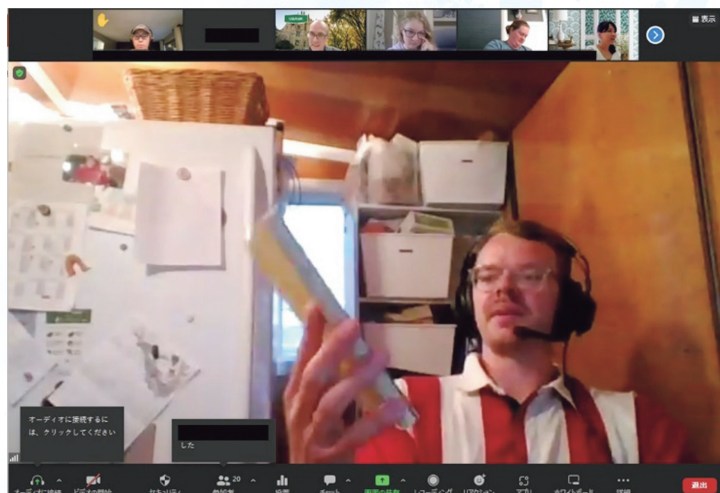
グローバル社会において活躍できる人材を育成する目的で、国際交流や留学意欲のある学生に対し、海外派遣（オンライン研修を含む）のための奨学金を支給しました。

## ▼カナダ国際PBLオンライン研修（2022年8月15日～8月26日）

教育学部社会専攻4年 町田知穂

カナダ国際PBL研修は、英語+αの研修で、1日の前半は、英語研修を行い、後半は、カナダのサスカチュワン大学の大学生とグループを組み、特定のテーマに基づいてSDGSの課題解決を行う合同のプロジェクトワークです。英語研修で基礎的な語彙力や表現を学び、その後のグループワークに活かすことができたのは、とても有益でした。

私がこの研修を通して学んだことは、SDGsの視点で物事を考える、ということです。私たちのグループは、「8. Decent Work and Economic Growth：働きがいも経済成長も」のトピックをベースに、カナダと日本の比較を行い、相違点を見つけ、共通の課題とその解決策について議論しました。SDGsには、「価値観」が伴い、経済の発展と環境の拮抗、あるいは、社会（組織）全体の幸福と個人の幸福のバランス、をどう保つのかはとても難しい問題だと気付きました。



また、この研修を通して、英語でのコミュニケーションをすることに自信がついたと感じています。完璧な文章で話をしなくても、単語と単語を組み合わせ、自分の思いを伝えることが大事であり、自分の考えが相手に伝わった時は、とてもうれしかったです。

私は、令和5年4月から公務員として働くことが決まっています。私が働く街は、外国人が多く、日本で抱える課題は多いと予想しています。この研修で学んだ、いろいろな視点から物事を考えること、価値観のバランスをとること、そして積極的にコミュニケーションをとることを基盤に、自分からイニシアティブをとって、外国人と日本人との共生や理解を図りたいと思います。

この研修はオンラインで行われましたが、研修費用は無償ではなく、群馬大学基金より奨学金を頂いたおかげで、貴重な経験をすることができました。ご支援いただき、大変ありがとうございました。

## ▼ベトナム国際オンラインインターンシップ（医療）

（2022年8月15日～8月26日）

医学部保健学科検査技術科学専攻3年 荻原実玖

ベトナム国際インターンシップでは、フエ薬科医科大学の学生とグループを組み、「COVID-19の影響によるメンタルヘルスと薬の効果」について、研究提案を行いました。専門に関係する2週間のインターンシップでしたが、私は、以下のことが自分の中で成長できたと思います。

まず、コミュニケーションを自分から積極的にとる姿勢です。今回のインターンシップでは、学生が主体となって発表や活動を行う機会が多くありました。その中で、英語で疑問点や自分の意見を伝えることは容易ではなく、伝えたいことがうまく伝わらないことがありました。しかし、ベトナムの先生や学生が、言い換えの表現や、言葉で伝わらない時はチャットを用いて解説してくれたことで、内容を理解することができました。英語が苦手だと感じていても、まずは伝えようとする姿勢が重要だと学ぶことができ、今、実践しています。

次に研修を通して自分の中で成長できたと思うことは、英語での医学論文の構成をいかにつくるか、ということです。今回の研修では研究提案の作成のみでしたが、実際の英語の論文に触れることで、日本語で書かれた論文との違いはもちろん、英語での医学論文において、どのような流れとどのような英語表現を使って書くべきであるのかを知ることができました。

ベトナム国際インターンシップは、英語を学ぶよりも、英語で自分の専門を学ぶ内容が強く、実践的で、自分の群馬大学での日々の学習にもとても有益になると感じました。また、同じ医療という専門を学ぶベトナムの大学生と一緒に課題に取り組めたことや、交流できたことは、とても刺激となり、私もベトナムの学生のように目標を高く持って頑張りたいと思いました。



## (2) 大学運営全般に係る事業

### ①グローバルチャレンジプログラム

学生個人又はグループが自ら企画したユニークかつ個性ある海外での活動に最大50万円を支給するプログラムです。審査で選ばれた学生に奨学金を支給しました。

教育学部・数学専攻4年 永村麻結 / 保健体育専攻4年 伊東美吹、荻原陽葉  
渡航先国：スロベニア

#### 【どのような留学活動をしたか？ どうしてその活動をしたと思ったのか？】

私たちはスロベニアのリュブリャナ大学で、基礎教育における算数、インクルーシブ教育、就学前教育における体育科教育について、学校視察や現地の先生方との対話、及び講義を通して学びました。私たちがスロベニアの学校視察をしようと思った理由は、教員としての視野を広げるため、日本と異なる教育を行っているヨーロッパの学校の教育現場を見たいと考えたからです。また、自専攻の教科である数学と体育が他国でどのように行われているかに興味をもっており、先進的にインクルーシブ教育を導入しているスロベニアから、近年日本でも重視されているインクルーシブ教育へのヒントが得られるのではないかと考えたからです。

#### 【気づいたこと・感じたこと・今後の自身の勉強や進路に向けて】

日本の教育に比べてスロベニアの教育にはゆとりがあると感じました。日本の教員の働き方について説明したところ、現地の先生方はその多忙さに驚いていました。また、校舎の環境が異なり、全体的にカラフルで日本より明るい雰囲気でした。一方、海外の学校を見ることで、日本の良さを見つけることもできました。また、文化面での違いを実感することができ、教育について新たな知識を得られました。

教員になった際には留学で得た経験を同僚の先生方に伝えることで、新たな視点から日本の学校教育の改善に努めたいと考えています。

#### 【グローバルチャレンジプログラムの魅力、支援に対する感謝】

「教育視察」に重点を置いた留学プログラムは少ないです。そのような中で、自分達のやりたいことを自由に盛り込めるところが最大の魅力であると思いました。特に教育学部生で海外の小中学校、高校の教育を見てみたいという人にはかなりおすすめだと感じます。また、そういう自分たちが計画した留学内容に、奨学金を頂けたことはとてもありがたく、留学後も自分たちが経験したことを伝えていきたいと思っています。



### [どのような留学活動をしたか？ どうしてその活動をしたと思ったのか？]

小児ホスピス、Great Ormond Street Hospital for Children (GOSH) オブザーバシッパ（神経内科）、GOSHサマースクール、ETC International CollegeにてNHSシステム、外国人診療、小児に対する手厚いケアについて学ぶべく2週間程活動しました。この活動をしようと考えた理由は、将来群馬県の外国籍をもつ子どもたちも安心して病院を受診できるように小児科医としてサポートしたいと考えたからです。

### [気づいたこと・感じたこと・今後の自身の勉強や進路に向けて]

GOSHの外来では患者さんが話す頻度が医者よりもはるかに多く主体的に治療に関わっていると感じました。小学生くらいの患者さんも自分の病名や治療薬の名前を把握していました。また、日本と比べチャリティー文化が根付いており寄付金を利用して建てられたGOSH院内、ホスピス内の子ども向けの大規模な遊び場には驚きました。成長したことは、準備段階も含めてのことですが課題遂行能力やプレゼン力が高まったことです。大学の実習と並行してプレゼン準備、CV作成や現地の方と直接日程調整をするのは大変でしたが、自信につながりました。

NHSシステムの完全導入は厳しいと思いますが、プライマリケア（GP制度）をベースとした重複のない医療体制モデルは医療費の削減や医師偏在の問題解決に繋がると考えます。また、医師となった際には患者さんに主体的に治療に関わってもらえるような診察ができるよう、今後も研鑽を続けていく所存です。

### [グローバルチャレンジプログラムの魅力、支援に対する感謝]

魅力は、留学先国、期間、現地での活動内容を全て自分で自由に決められる点です。また、休みが限られている医学部生にとっては自分の休みに合わせて留学期間を設定できるのも魅力であると考えます。今後グローバルチャレンジプログラムに挑戦する群大生が増えていくことが楽しみです。ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。



## ②国費外国人留学生受入事業

### ▼国費外国人留学生の入国待機期間中の滞在諸費用を補助

2022年度前半、新型コロナウイルス感染症の水際措置として、外国人留学生は入国の際、所定の日数、宿泊施設等で待機する必要性がありました。今回、群馬大学基金を活用し、2022年4月に国費外国人留学生の入国待機中の滞在諸費用を補助しました。

※国費外国人留学生：外国人が日本政府からの奨学金を得て日本に留学するものです。

### ③新型コロナウイルス感染症対策助成事業（食に対する支援）

▼学生生活や修学環境の変化により、経済的に困窮した学生に対し、全国の外食チェーン店で使用できる食事券5,000円分を支給しました。



#### ▼食に対する支援を受けた学生の声

- ◆食事券大切にに使わせていただきます。いつも支援していただきありがとうございます。
- ◆全国で使用できる食事券はとても便利で嬉しいです。感謝します。
- ◆この支援により外食が可能となることで、食生活が豊かになると思います。コロナ禍で自宅に一人のことが多く塞ぎ込みがちの人にも気分転換のきっかけとなる良い支援だと思います。ありがとうございます。
- ◆物価の高騰や、コロナの影響で外食に行く機会が少なくなっている。研究などで、自炊する余裕がないときに、外食という選択が難しくなっている中で、このような支援があってとても助かります。本当にありがとうございます。
- ◆今回の支援により、友人や家族と過ごす時間も増やすことができると思うので、大変嬉しいです。ありがとうございます。
- ◆コロナウイルスの感染拡大や国家試験対策などで中々アルバイトができず厳しい状況なので、どこでも使用できる食事券をいただけると大変助かります。誠にありがとうございます。
- ◆コロナ禍でアルバイトの時間が減り、収入が見込めない上、物価の上昇が重なりとても困っていました。食費を削り生活していたので今回の支援はとても助かります。ありがとうございます。
- ◆生活が苦しく、食事の回数を減らすことも多いので大変ありがたいです。
- ◆群大が学生の国籍を問わず就職や生活支援に力を入れていることを強く感じています。ありがとうございます。
- ◆家庭からの仕送りがない私たちにとって、昨今の情勢による物価高騰は生活の大きな負担となっています。そんな中、このような形で支援を頂けることに感謝の気持ちしかありません。本当にありがとうございます。
- ◆非常にありがたく感じます。他の大学と比べて手厚いと感じ、こういった支援を行っていただけてとても助かります。
- ◆コロナ禍で家庭の経済状況が安定しない中で食費の支援をしていただきとてもありがたいと思った。このような学生支援のおかげで沢山の学生が助けられていると思う。
- ◆とても感謝しています。このように支援していただけたとは思っていなかったため、驚いています。飲食は生きるために必要なことですが、そのためにかかるお金が増えていて困っていたため、本当に感謝しています。素晴らしい支援だと思います、ありがとうございます。
- ◆とてもありがたいものだと思います。学生を思いやっくださりありがとうございます。感謝して使わせていただきます。
- ◆常に金銭面への不安と向き合うことが多く、勉学に集中しきれないこともあるので、ご支援に本当に助けられています。
- ◆私は食事をするのが大好きなので、今回の支援は本当に嬉しいです。食べることは生きていく上で欠かせないことなので、感謝しかありません。本当に助かりました。ありがとうございます。

#### ④物価高に対する経済対策支援事業

▼物価高の影響により、厳しい生活を余儀なくされている学生に対し、群馬大学生協食堂及び購買書籍店で使用できる生協電子マネー 5,000円分を支給しました。

#### ▼物価高に対する経済対策支援を受けた学生の声



- ◆このように社会の情勢に臨機応変に対応してくださっていることに感謝しかありません。学生に寄り添い学問に専念しやすいように環境を整えてくださって本当にありがとうございます。
- ◆電気ガス代が去年に比べて高騰し、食事代を節約していたのでうれしいです。また、学食が混んでいて使用できないことが多かったので、購買でも利用できるのが非常にありがたいです。
- ◆この時期は教科書購入などの費用が高いため、今回の支援は非常に有り難いです。
- ◆母が食事代に困っていたので、この支援を聞いてとても喜んでいました。ありがとうございます。
- ◆食費は必要経費でありながら、大きな負担になっていたので、今回の支援はとても嬉しいです。
- ◆生協は普段から良く利用するので、この支援は非常にありがたいです。
- ◆特に教科書を買うときに多額の出費が多く大変なので、購買で使えるという点が非常にありがたいです。ありがとうございます。
- ◆なるべく現金を使わないように自宅からおにぎりを持参していたので、少し贅沢ができそうです。ありがとうございます。
- ◆すべての講義が対面形式となり、大学へ行く日が増え学食を利用させていただく機会も多くなっているので、とても嬉しくありがたい支援だなと感じます。ありがとうございます。
- ◆私は食堂でご飯を食べたり、購買で購入したりする際には毎回値段を気にしてしまいます。そのため、このような支援があると心に余裕が生まれるため、ありがたいです。
- ◆今回の支援のおかげで、学用品や学習用の本を購入することができます。本当に感謝しています。
- ◆とても感謝しています。生協で勉強に必要な道具を揃えたり、お昼を食べるために使おうと思っています。このようなことをしていただけたため、期待に答えようとより勉学に励む意欲になっています。
- ◆コロナ禍により収入が減った上に今回の物価高により満足に栄養を摂ることができなかったのでこのような支援はありがたいです。
- ◆この度、生活支援をして下さりありがとうございます。コロナ過で大変な中、学校から何度も食料や経済支援を受けた私にとって、一生心に残るような温かいものでした。大切に使用させていただきます。私も将来誰かのためになれる活動に積極的に参加したいと思います。本当にありがとうございました。
- ◆物価の高騰は生活する上で大きな影響があり、今回の支援によって少しでも救われる学生が多く存在すると思います。今回の支援に心より感謝申し上げます。

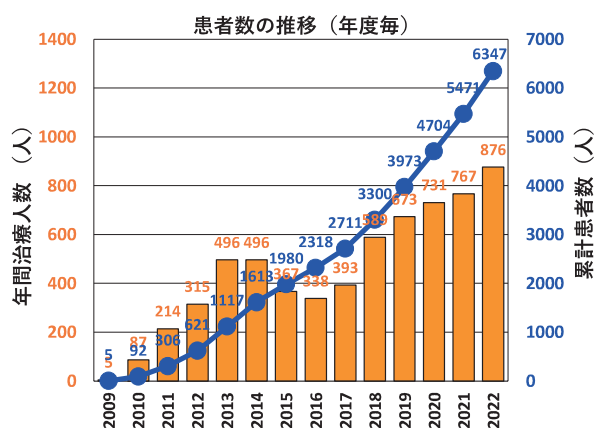
### (3) 重粒子線治療の普及・発展に資する事業

#### 重粒子線治療の患者数はますます増加しています

群馬大学重粒子線医学研究センター 教授 田代 睦

群馬大学の重粒子線治療は、先進医療として2010年3月に始まりました。先進医療技術の安全性や有効性は厚生労働省により定期的に評価されています。重粒子線治療については、2016年に骨軟部腫瘍が国内で初めて保険適用となり、2018年には前立腺がんと頭頸部がんも追加されました。さらに、2022年の診療報酬改定では、新たに5疾患（大型の肝細胞がん、肝内胆管がん、局所進行膵がん、手術後の大腸がん再発、子宮頸部腺がん）が保険適用として追加されました。本学の重粒子線治療を受けられる患者さんの数はますます増加しています。患者数の推移を図に示します。これまでに、のべ患者数は6,300人、年間治療患者数は870人を超えています。特にこの3年間は、新型コロナウイルス感染症の蔓延状態にもかかわらず、患者数は過去最大を更新しております。照射回数が少なく、外来通院も可能といった重粒子線治療の強みが、コロナ禍においても発揮されているように思います。今後も感染予防に留意し、患者さんに最善の治療を提供していきます。

重粒子線治療の保険適用疾患はますます拡大し、この治療を必要とする患者数もさらに増加することが予想されます。そのような中で、重粒子線治療を安全・確実にやっていくことは、本学の重要な役割です。それと同時に、さらに良い治療にしていくために、重粒子線治療に関する生物・臨床研究や新規技術の研究開発を推進することも、重粒子線治療施設を持つ数少ない大学としての使命です。このような取り組みに対して、これまで群馬大学基金の一部を使わせて頂きました。また、治療開始から13年が経過し、装置・施設の老朽化による一部設備の更新も始まっており、将来大規模な機器更新も必要になることが見込まれています。重粒子線治療の安定的な継続と今後の更なる普及や発展のために、皆様のますますのご支援をよろしくお願いいたします。



図：重粒子線治療患者数の年度別推移



## (4) ウクライナ学生・研究者受入支援事業

今般のウクライナ情勢を受けて避難した学生及び研究者の教育研究活動の継続を支援するため、渡航費や生活費の支援及び日本語学習支援等を行いました。

### (共同教育学部科目等履修生 アンドリアナ)

ウクライナ出身のアンドリアナです。群馬大学から頂いている支援に大変感謝しています。日本に着いたのは2022年度の前期で、やっと勉強できるチャンスをもたらえたような気がして、できるだけ多くの講義を受けようと思いました。日本語の集中講座に入ることができ、時には大変なこともありましたが、先生方は皆さんとても熱心に指導してくださいました。日本語だけでなく、英語の授業に参加したり、琴や三味線などの日本の伝統楽器の演奏も学ぶことができました。この年齢になって新しいことを学ぶのに、こんなに楽しめるとは思っていませんでした。お琴は、最初は慣れるのにも苦労し、初めてのコンサートの前はとても不安でしたが、予想以上にうまくいきました。「小学校英語」の授業では、チームプロジェクトやプレゼンテーションなどを通して、小さな子どもたちを前に仕事をする際に必要な新しいスキルを学ぶことができました。苦労をしたのはドイツ語の授業で、すべて日本語での授業に出席するのはこれが初めてでした。

現在も日本語の授業等を受け、琴や三味線の勉強も続けています。何より群馬大学附属小学校で子供達と交流できる機会をいただけたことを楽しみにしています。教えることは昔から好きだったことです。日本で働くことは簡単ではないと理解していますが、頑張りたいと思っています。

今、私にできる祖国を助ける最善の方法は、自立して安定した仕事を見つけ、戦争が終わったときに祖国の復興に貢献できるようになることだと実感しています。そして、群馬大学がその手助けをしてくれています。私はここ日本で英語教師になることを夢見ている、自分のこの小さな世界を変えていきたいと思っています。

### (大学教育・学生支援機構非常勤研究員 トルバラ アデリナ)

私はウクライナ人で、幸運にも2022年7月に群馬大学に採用していただく機会を得て、現在、研究員として働き、大学の支援を受けて研究を続けています。将来は完璧な日本語を話すことが目標で、いくつかの授業を見学させていただき、本当に素晴らしい体験を積み重ねてもらっています。クラスの和気あいあいとした雰囲気や、本当に面白い議論でワクワクすることもありました。群馬大学の就活セミナーにも何度か参加し、将来の目標である日本でのフルタイム就職に向けての心構えを身につけました。

今年、出身大学のワルシャワ大学に出張する機会を得ました。ワルシャワ滞在中、何度か研究に関する打ち合わせを行いました。最も大きな意味を持ったのは、群馬大学のGFL生とワルシャワ大学日本語学科の学生とのオンライン交流イベントでした。このような素晴らしいイベントの企画に協力でき、司会者の役割を果たすことができ、本当に光栄でした。私に関係している2つの大学の学生が交流したことがとても感動的で、群馬大学とワルシャワ大学の懸け橋になれるよう、これからも頑張っていきたいと思います。5月には第2回目のオンラインミーティングを予定しており、今回は、日本とポーランドの学生がウクライナからの避難民の状況について話し合う予定で、待ち遠しいです。

日本の群馬大学で、美しい自然と優しい人々に囲まれた安全な場所で快適に暮らす機会を得られたことに心から感謝しています。また、ウクライナの文化についての知識を共有し、祖国の恐ろしい戦争について声を上げることができ、私の話を聞こうとするすべての人々に感謝しています。

# 令和4年度群馬大学基金収入支出決算書

## 1. 収入決算

(単位：円)

事 項	R3 収入額	R4 収入額
(1)学生の修学支援に資する事業	14,468,000	33,065,110
(2)大学運営全般に係る事項	4,611,717	4,553,823
(3)重粒子線治療の普及・発展に資する事業	3,112,000	12,400,000
(4)学生等への研究等支援に資する事業	13,401,000	9,308,188
(5)ウクライナ学生・研究者受入支援事業	-	5,538,902
(6)創基 150 周年記念事業	-	262,000
(7)受取利息	4,714	5,599
合 計	35,597,431	65,133,622

## 2. 支出決算

(単位：円)

事項	内 訳	予算額	決算額
(1)学生の修学支援に資する事業		4,900,000	4,223,000
①経済的困窮学生に対する修学支援金給付事業	大学院生 12人(前期6人、後期6人)×200,000円	2,400,000	2,400,000
②留学経費補助事業	交換留学 80,000円×1人×2ヶ月分 70,000円×5人×2ヶ月分 短期研修 70,000円×6人×1ヶ月分 60,000円×1人×1ヶ月分 オンライン留学 30,000円×16人、3,000円×1人	2,500,000	1,823,000
(2)大学運営全般に係る事業		12,477,500	4,945,368
①グローバルチャレンジプログラム	500,000円×2件、363,997円×1件 373,100円×1件	5,500,000	1,737,097
②国費外国人留学生受入事業	留学生の滞在諸費用補助 PCR検査終了前 1日5,500円×1名	817,500	5,500
③新型コロナウイルス感染症対策助成事業 (食に対する支援)	5,000円×305人 ※基金以外からも200人分(100万円)給付	2,500,000	1,525,000
④物価高に対する経済対策支援事業	5,000円×137人 ※基金以外からも200人分(100万円)給付	2,660,000	685,000
⑤基金事務費	基金システム運用費、基金ホームページ運用費 印刷費、通信費等	1,000,000	992,771
(3)重粒子線治療の普及・発展に資する事業		0	0
※R4年度の事業なし		0	0
(4)学生等への研究等支援に資する事業		0	0
※R4年度の事業なし		0	0
(5)ウクライナ学生・研究者受入支援事業		10,000,000	2,346,406
①ウクライナ学生・研究者の受け入れ支援	留学生・研究者の渡航費、一時金、生活費、住居費 非常勤職員賃金、チューター謝金、旅費・消耗品等	10,000,000	2,346,406
(6)創基 150 周年記念事業		0	0
※R4年度の事業なし		0	0
合 計		27,377,500	11,514,774

## 3. 繰越額

(単位：円)

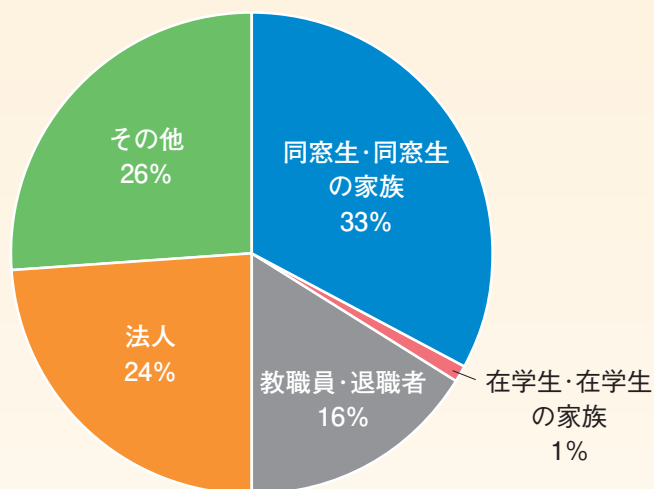
事 項	前期繰越額	翌期繰越額
(1)学生の修学支援に資する事業	49,861,176	78,703,286
(2)大学運営全般に係る事項 (利息 5,599 円を繰入)	52,064,054	51,678,108
(3)重粒子線治療の普及・発展に資する事業	326,495,997	338,895,997
(4)学生等への研究等支援に資する事業	13,411,000	22,719,188
(5)ウクライナ学生・研究者受入支援事業	0	3,192,496
(6)創基 150 周年記念事業	0	262,000
合 計	441,832,227	495,451,075

※大学運営全般でウクライナ支援として受け入れた収入額及び大学運営全般の予算からウクライナ支援として執行した支出額は「ウクライナ学生・研究者受入支援事業」に含む

## 寄附者と群馬大学の関係

寄附者区分	件数	寄附金額（円）
同窓生 同窓生の家族	159	21,301,000
在学生 在学生の家族	18	595,000
教職員 退職者	31	10,140,000
法人	54	15,788,773
その他	24	17,303,250
総計	286	65,128,023

寄附者区分ごとの寄附金額の割合



※ 2022年4月1日～2023年3月31日の寄附

## 2022年度寄附者のご芳名

ご寄附いただきました皆様に深い感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。

※2022年4月1日～2023年3月31日の期間にご寄附のお申込みをいただいた方で、お名前掲載を許可いただいた方のみを掲載しております。

### 個人寄附者ご芳名

(五十音順・敬称略)

相原 忠義	石原 悦壽	大野 昌志	小金澤智代	佐藤 健	鈴木 弘之
天笠 俊之	磯 文夫	大庭 華子	小暮 公孝	猿木 和久	鈴木 守
荒井智恵子	伊藤 和也	岡野 弘文	小島 章	澤井 宏明	住山 民雄
荒居 正和	伊藤 大輔	小河 純吉	児玉 智郎	澤木 明	添田 勉
新井 豊	伊藤 孝男	荻野 正夫	後藤 文夫	塩田 利彦	高田 綾子
飯島 久香	伊藤 晃子	陰田 正	小西 憲二	島田るみ子	高橋 明
飯塚 登志	伊藤 正男	河西 春郎	小林 傑	清水 和夫	高橋 治
飯野 佑一	井上 斉	笠原 浩一	小松 康宏	清水 浩二	滝澤 雅雄
五十嵐真奈美	梅島 昌	加藤 弘道	近藤 潤	清水 武雄	武富 麻恵
五十嵐優子	海老原麻衣	金子 雄輔	今野 純子	下村 卓	田村 武
池田 春寿	大川 英夫	川崎 幸雄	齋藤 浩一	白石 鶴子	千原 正貴
池田 裕治	大黒 正之	菊池 彰隆	嵯峨 六雄	白倉 賢二	徳江 雅士
石川 三衛	大槻 智宏	金城 忠雄	坂西 明郎	菅又 偉雄	登坂 璋典
石崎 泰樹	大月弥之助	黒川 公平	佐々木陽子	鈴木 庄亮	土橋 洋
石田 弘	大西 章夫	小井田時廣	佐藤 一彦	鈴木 秀雄	直井小百合

長岡 広伸	中山由紀恵	島山 靖光	星野 竹志	三浦 由太	山本 進
中里 洋一	成瀬 豊	服部 晶	前田 洋文	宮園 浩平	横田 賢治
中島 孝	名和 正義	羽鳥 基明	間島 竹彦	村本 卓郎	吉田 豊
中田 逸夫	縄田 瑞木	日永 正彦	松尾 仁	森泉 良二	
中野 眼一	西川 祥子	平井 大介	松崎 茂	師星 宣彦	匿名希望の 寄附者様
中野由美子	西村 淳	平田小百合	松下 近	矢島 正	74名様
中林 公正	萩山 正治	廣田 泰士	松嶋 克典	柳沢 靖浩	
長安めぐみ	橋本 豊三	伏木 陽子	三浦 雄二	山田 泉	

## 法人・団体寄附者ご芳名

(五十音順・敬称略)

株式会社アイ・ディー・エー	システムセイコー株式会社
あかぎ信用組合	上武印刷株式会社
足利ガス株式会社	株式会社総合PR
株式会社アドテックス	第69回荒牧祭実行委員会
池下工業株式会社	高崎北ロータリークラブ
植木プラスチック株式会社	高崎セントラルロータリークラブ
鶴川興業株式会社	株式会社チノー
王子製鉄株式会社	一般財団法人同愛会
萩原産業有限会社	東京パーツ工業株式会社
有限会社柏屋	株式会社登利平
菊地歯車株式会社	株式会社日本キャンパック
技研コンサル株式会社	株式会社野村建設工業
株式会社協正金型製作所	一般社団法人パナック持株支援会
桐生信用金庫	株式会社原田
株式会社キンケン	バンドー化学株式会社
株式会社群電	星野総合商事株式会社
一般社団法人群馬大学工業会	MICシステム
群馬大学工業会横浜支部一同	株式会社矢野
群馬大学消化器・肝臓内科	株式会社ヤマト
群馬トヨベット株式会社	株式会社ユタカ製作所
国際ロータリー第2840地区	株式会社ヨーユーラボ
株式会社サンコー・インダストリアル・オートメーション	株式会社ヨシカワ
株式会社シィオ	
しげる工業株式会社	匿名希望の法人・団体様 6法人・団体様

## 群馬大学クラウドファンディングプロジェクト

### 「小児重症心不全患者を救いたい！ 超小型人工心臓の開発」

大学院理工学府 教授 橋本誠司  
大学院理工学府 准教授 / ベイラー医科大学外科部 准教授 栗田伸幸



重症心不全患者の救命のため、成人用人工心臓は一般的な治療になりつつあります。しかし、小児用人工心臓は、①患者が少ないため収益化が困難、②小型であるため開発が困難、という問題があり、開発が遅れています。そこで私たちは、小児の体内に埋め込むことができるほど小型な人工心臓を開発したいと考え、2021年にクラウドファンディングを立ち上げ、713名の方から約3,000万円のご支援をいただきました。皆様からのご支援に感謝申し上げます。

その後、学内にて板橋英之副学長、浅尾高行副学長、医学部循環器外科教授 阿部知伸、理工学府電子情報部門教授 橋本誠司、理工学府電子情報部門准教授 栗田伸幸をメンバーとして、「人工心臓開発プロジェクト推進チーム」を発足しました。板橋、浅尾両副学長による全学的なバックアップに加え、人工心臓の埋め込み経験豊富な阿部教授と、AI自動制御工学の専門家である橋本教授のサポートにより、群馬大学の医学・理工学の強みを横断的に網羅した、強力なチームです。さらに、栗田伸幸准教授は、2022年6月からアメリカのベイラー医科大学の准教授として赴任し、テキサス小児病院で、安達偉器准教授と共同で研究開発を開始しました。テキサス小児病院は、循環器内科・心臓外科の分野で、6年連続で全米No.1 (U.S. News & World Report Ranking) に選ばれています。このような研究環境の中、現在は群馬の地元企業と連携し、超小型人工心臓の製作を行っており、2023年内には動物実験を行う予定です。

今後も世界一の人工心臓の開発に向けて精力的に研究に取り組みたいと考えています。これからもますます頑張りますので、引き続き応援をよろしくお願い致します。

群馬大学基金へご支援いただきありがとうございます。引き続きご支援をお願い申し上げます。

ご寄附は Web サイトから可能です。  
(クレジット・コンビニ・銀行振込 対応)

群馬大学基金

検索

<https://kikin.gunma-u.ac.jp/>



群馬大学基金お問合せ先

国立大学法人群馬大学 総務部総務課基金係  
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地  
TEL 027-220-7018  
FAX 027-220-7012  
Email kikin@jimu.gunma-u.ac.jp